

授業要項(令和6年度分)

2 年 生

理 学 療 法 学 科

授業科目名	解剖学－実習－		(フリガナ) 担当教官名	堀	江	貴	文	・	錦	織	健	次
開講学期	前期			津	田	宏	太	郎				
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	実習	必修・選択 の別	必修					
科目概要	<p>人体各器官の模型を用いながら、神経系、内臓器系、運動器系の3分野に分けた実習を行う。実習はPT学科・OT学科合同のグループワークとする。全体で9グループ作成し、神経系、内臓器系、運動器系それぞれで3グループずつ配置し、5コマ毎に各分野をローテーションしながら全ての分野の学習を行わせる。担当教員は事前に各分野に関する予習課題を課し、各分野授業開始時に小テストを行う。また学習終了時に理解度の確認のための口頭試問を行う。</p>											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各系統を構成する個々の器官の形態や構造および互いの立体的に位置関係を正しく理解し説明できるようになる。 ・模型を用いて人体各器官の立体的な構造を理解することにより、講義で学んだ知識と関連付け、説明することが出来る。 											
回数	授業内容										担当	
1～15	<ul style="list-style-type: none"> ①オリエンテーション（到達目標、授業の流れ等） ②PT・OT合同で9グループに分かれる。 ③②のグループを神経系、内臓器系、運動器系の各分野で3グループずつに分ける。 ④各分野に対し5コマずつ学習を行い、ローテーションしながら15コマで全分野の学習を行う。 										堀江貴文 錦織健次 津田宏太郎	
アクティブ ラーニング	各分野の解剖学的構造に関する予習課題を課し事前学習を行わせ、各分野における授業開始時に小テストを実施する。実習はグループ学習を基本とするため、グループメンバー全員が相互に協力して実習を遂行する必要がある。											
評価基準	出席状況（10％）小テスト（30％）、口頭試問（60％）により判定する。口頭試問は学習期間内に必ず合格することを原則とする。 3領域すべての合格で単位認定とする。不合格の分野についてはその分野の担当教員による個別指導を行い、合格するまで学習を継続させることとする。											
教科書	標準理学療法学・作業療法学・解剖学（第5版）（奈良 勲ら監修、医学書院）											
参考書	Qシリーズ 新解剖学（第6版）（加藤 征監修、日本医事新報社）											
実務経験に関する記述	総合病院において、7年間専任理学療法士として従事し、回復期病棟、医療療養病棟、外来における身体障害および老年期障害に対する個別理学療法を実践した教員が、解剖学の基礎から立体的構造、各器官の相互的位置関係に至るまで、人体各器官の構造を総合的に学ばせる。											

授業科目名	生理学実習		(フリガナ) 担当教官名	ハシ	モト	ミチ	オ	ハシ	ムラ	コウ	ジ
開講学期	前期			津	田	宏	太	郎	吉	田	俊
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	45 1	授業 形態	実習	必修・選択 の別	必修				
科目概要	生理学の講義で学習した生体の諸機能のうちで重要な項目を選び、実習によってこれらが真実であることを認識するとともに、生理学的な生体機能の考察を通じて生理学の知識と理解を更に深め、療法士としての資質を高めることを目的とする。										
到達目標	①各テーマごとに必要な生理学の知識を復習し、修得できる ②各自が責任をもちグループ内で協働し実習に取り組むことができる ③実習で得た結果について、生理学的知識を用いて考察できる ④担当教員の指導のもとにレポート作成、発表準備、発表を行うことができる										
回数	授業内容									担当	
1	オリエンテーション 授業の目的、内容、到達度等について説明する。									橋村康二	
2	確認試験									橋村康二	
3~5	I-1. 神経の興奮と伝導 (橋本道男、津田宏太郎) 誘発筋電図を使用して神経伝導速度の測定を行う。さらに駆血させた状態では、神経伝導速度がどのように変化するか観察して、その要因を考察する。 I-2. 筋長と筋収縮力の関係 (長谷川奈保) ハンドヘルドダイナモメーターを使用して、肘関節の角度毎の屈曲力を測定する。角度による肘屈曲力の変化を観察し、その要因を考察する。									橋本道男 津田宏太郎	
6~8	II. 感覚と反射 体性感覚の特性について実験を通じて確認し、受容器や神経、脳の機能局在の特徴から考察する。また、伸張反射を観察し、そのメカニズムを考察する。									橋村康二	
9~11	III. 換気とガス交換の生理 スパイロメーターを用いて肺活量等を測定する。体幹を側屈させた場合では排気量にどのような変化が起こるか観察し、その要因を考察する。 また、パルスオキシメーターを使用して酸素飽和度を測定する。息こらえなどの操作により、酸素飽和度がどのように変化するか観察し、その要因を考察する。									橋村康二 吉田俊輔	
12~14	IV. 運動と代謝 呼気ガス分析装置を用いて、運動時の酸素摂取量、二酸化炭素排出量等を測定する。それらの結果からエネルギー代謝の状態を考察する。									橋村康二	
15~17	V. 腎機能と水分調整 蒸留水や等張液、運動負荷などで尿量や尿の塩濃度、比重がどのように変化するか観察する。そして、その変化の要因について考察する。									橋本道男 津田宏太郎	
18~20	VI. 心臓の活動と心電図 実際に心電図を測定することで、心臓の刺激伝導系について確認する。加えて、バルサルバ手技により心拍数がどのように変化するか観察し、その要因を考察する。									吉田俊輔	
21~23	報告会 各グループごとにテーマを担当し、発表する。									担当教員全員	
アクティブ ラーニング	実習を通じて1年次に学んだ生理学の知識について再確認するとともに、理解を深める。最終的にグループごとにテーマを指定し、クラス全体の結果をまとめ、考察を行い、報告会において発表する。										
評価基準	課題取り組み状況 20%、レポート内容 60%、発表内容 20% ※上記に関わらずレポートの提出ができなかった場合は単位を認めない										
教科書	・標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版 (医学書院) ・実習書を配布する										
参考書											
実務経験に 関する記述											

授業科目名	臨床心理学		(フリガナ) 担当教官名	シ 執 行 三 佳 キョウ ミ カ			
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	臨床心理学は、対人援助職者が被支援者の心情理解をするにあたって重要な分野である。この授業では、臨床心理学の歴史、理論的背景、主な支援方法、現代的なトピックスを概説するとともに、様々なワークを通して自己理解及び他者理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理学の歴史と臨床領域の広さについて説明することができる。 臨床心理学的支援の理論と介入方法の概要を説明できる。 臨床心理学的見地から、支援者としての自分の意見をまとめ、表現することができる。 						
回数	授 業 内 容						担 当
1	オリエンテーション、臨床心理学を学ぶ意義、臨床心理学の目指すもの						執行三佳
2	臨床心理学の歴史、臨床心理学的支援に関わる基本的な理論						執行三佳
3	精神的健康とは何か						執行三佳
4	インテーク面接とアセスメント						執行三佳
5	臨床心理学的支援 (1) 精神分析の理論						執行三佳
6	臨床心理学的支援 (2) 精神分析療法						執行三佳
7	臨床心理学的支援 (3) 行動療法・認知行動療法						執行三佳
8	認知行動療法的アプローチの実際						執行三佳
9	臨床心理学的支援 (3) 人間性心理学						執行三佳
10	聴くことについて (傾聴・カウンセリングの模擬体験)						執行三佳
11	トピックス (1) 発達障がいと合理的配慮						執行三佳
12	トピックス (2) 心の危機						執行三佳
13	日本の臨床心理学的課題						執行三佳
14	対人援助職者のメンタルヘルス						執行三佳
15	テスト						執行三佳
アクティブ ラーニング	自分自身の心を見つめることを通して学ぶことを重視する。そのため、すべての回において、導入としてのワーク、学びを深めるワーク、自己理解を深めるワーク、被援助者の模擬体験をするワークのいずれか1つ以上を行う。						
評価基準	レポート1回：10% (独自の意見・感想が表現されていること) 毎回の感想シート：10% (同上) テスト：80%						
教科書	「はじめての講義 リハビリテーションのための臨床心理学」 牧瀬英幹著 (2021) 南江堂						
参考書	よくわかる臨床心理学改訂版・下山晴彦編・ミネルヴァ書房 臨床心理学とは何だろうか 基本を学び、考える・園田雅代、無藤清子編・新曜社						
実務経験に 関する記述	精神科の入院、外来、デイケア (4年)、スクールカウンセリング (5年)、乳幼児健診での相談業務、心療内科クリニック、学生相談 (12年) での臨床経験を持つ教員が、各領域における連携事例を含む支援事例を提示し、こころに対する知見と態度を醸成する教育を行う。						

授業科目名	内科学		(フリガナ) 担当教官名		神田 武志・村川 洋子・小谷 暢啓 佐野 千晶・石原慎一郎・川原 洋 長尾 大志・小川 典子・内田美美佳			
開講学期	前期・後期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	45 3	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	基礎医学の知識を基にして、臨床医学の基本となっている内科学の病態生理、症候、診断と治療や予後に関する基本的な知識の充実と応用力を養成することを目的とする。							
到達目標	理学療法士、作業療法士の養成施設指導要領に求められる基本的な内科学的知識の取得ができる。							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	膠原病						村川 洋子	
2								
3	アレルギー疾患						内田美美佳	
4	腎機能障害 血液透過療法、透析合併症						神田 武志	
5								
6	代謝異常症						小川 典子	
7								
8	感染症 中毒、物的原因による疾患						佐野 千晶	
9								
10	循環器疾患 循環器解剖学・生理学、心電図等の検査 心不全の病態、虚血性心疾患 画像診断						小谷 暢啓 渡邊 伸英 川原 洋	
11								
12								
13								
14	内分泌疾患 下垂体、甲状腺疾患の病態						石原慎一郎	
15								
16	消化器疾患 消化器疾患の症候、検査法 口腔・食道・胃・小腸・大腸の疾患 肝臓疾患の各論、胆膵疾患の総称 画像診断							
17								
18								
19								
20	呼吸器疾患 気管支喘息と COPD、間質性肺炎 画像診断						長尾 大志	
21								
22								
23								
アクティブ ラーニング								
評価基準	期末試験、小テスト、出席の総合得点で評価							
教科書	標準理学療法学・作業療法学・基礎分野 内科学 第4版 前田眞治他 医学書院							
参考書	EBM 現代内科学 黒川清 他編 金芳堂 内科診断学(改訂第9版) 黒川清 他編 金芳堂 新臨床内科学(改訂第9版) 高久史磨 他監修 医学書院							
実務経験に 関する記述	本科目はオムニバスであり、各専門分野の認定医資格(腎臓専門医、透析専門医、総合内科専門医、内科専門医)を持つ医師が、大学病院で日々臨床診療に携るなか、経験した症例や体験談、模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。							

授業科目名	整形外科学		(フリガナ) 担当教官名	山本宗一郎・山上信生・多久和紘志 門脇俊・真子卓也・西英明 岩佐潤二・栗岡秀行・柿丸知之 山崎健治			
開講学期	通年						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	45 3	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	運動器の変形・外傷・炎症・変性・代謝疾患・腫瘍についての病態を理解するとともにそれらの診断法、治療法の知識を習得し、選択する判断力を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨、関節、筋の構造と機能を知るとともに整形外科的診断法の意義を理解する。 2. 頻度の高い骨折、脱臼、捻挫の病態、症状、合併症を理解する。 3. 上肢、下肢、脊椎の代表的疾患と外傷の病態と治療法を理解する。 4. 骨・関節感染症の特徴と診断法および治療法について理解する。 5. 骨・軟部腫瘍の診断法、治療法について理解する。 6. 骨系統疾患、代謝疾患の特徴、診断法および治療法について理解する。 						
回数	授 業 内 容						担 当
1	運動器の構造と機能、病態生理						山崎
2	診断学、検査						西
3	治療						岩佐
4	運動器の外傷						栗岡
5	骨軟部腫瘍						柿丸
6	骨・関節感染症、骨系統疾患						多久和
7	変形性関節症、代謝性疾患						多久和
8	関節リウマチおよび類縁疾患						西
9	スポーツ外傷・障害						門脇
10	運動器リハビリテーション						西
11	脊椎・脊髄の外傷						真子
12	脊椎・脊髄の疾患						真子
13	肩関節・上肢帯の外傷						山本
14	肩関節・上肢帯の疾患						山本
15	肘・手関節・手の外傷						山上
16	肘・手関節・手の疾患						山上
17	骨盤・股関節・大腿の外傷						門脇
18	骨盤・股関節・大腿の疾患						門脇
19	膝関節の外傷						多久和
20	膝関節の疾患						多久和
21	下腿・足関節・足の外傷						岩佐
22	下腿・足関節・足の疾患						山崎
23	下腿・足関節・足の疾患						山崎
アクティブ ラーニング							
評価基準	プレゼンテーション 30%、期末試験 50%、出席日数・授業態度 20%						
教科書	運動器疾患とリハビリテーション 第2版 (医歯薬出版)						
参考書	標準整形外科学/松野丈夫 [ほか] 編集、第12版、医学書院						
実務経験に 関する記述	大学病院、総合病院にて10年以上、臨床経験を持ち整形外科専門医資格を持つ教員が整形外科疾患について具体的な事例を提示し、実践的教育を行う。						

授業科目名	神経内科学		(フリガナ) 担当教官名		オグロ 小黑	ヒロアキ 浩明	ワタナベ 渡邊	タツゾウ 達三	イジマ 飯島	ケンイチ 猷一
開講学期	通年									
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年	時間数	45	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修			
作業療法学科 2年	時間数 単位数	3								
科目概要	神経内科疾患を診断し、リハビリテーションを行う時の効果的介入を行うことができることを目標に、(1) 神経学的診断法、検査法、(2) 主要な神経・筋疾患の病態を修得する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主要神経疾患の成因と病態、症候、検査及び治療を理解できる ・神経難病対策の社会的意義を理解できる 									
回数	授業内容								担当	
1	障害とリハビリテーションプログラム								飯島猷一	
2	中枢神経系の解剖と機能								飯島猷一	
3	神経学的検査法								飯島猷一	
4	意識障害、脳死、植物状態								小黑浩明	
5	頭痛、めまい、失神								小黑浩明	
6	運動麻痺、錐体路徴候、筋委縮								小黑浩明	
7	錐体街路徴候、不随意運動								小黑浩明	
8	運動失調								飯島猷一	
9	感覚障害								渡邊達三	
10	高次脳機能障害；失語症								渡邊達三	
11	高次脳機能障害；失認								渡邊達三	
12	高次脳機能障害；失行								渡邊達三	
13	高次脳機能障害；記憶障害、認知症、遂行（実行）機能障害								渡邊達三	
14	構音障害、嚥下障害、脳神経領域の疾患								渡邊達三	
15	脳血管障害								渡邊達三	
16	認知症								渡邊達三	
17	脳腫瘍、外傷性脳損傷								渡邊達三	
18	脊髄疾患								渡邊達三	
19	変性疾患								渡邊達三	
20	錐体街路の変性疾患								渡邊達三	
21	末梢神経障害、てんかん、筋疾患								渡邊達三	
22	感染性疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による疾患								渡邊達三	
23	小児神経疾患、廃用症候群と誤用症候群、合併症、排尿障害、性機能障害								渡邊達三	
アクティブ ラーニング										
評価基準	定期試験、小テスト、出席の総合評価で60点以上の得点者を合格とする。60点未満については、再試験を実施する。									
教科書	川平和美編「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学（第5版）」（医学書院）									
参考書	田崎義昭・斎藤佳雄「ベッドサイドの神経の診かた」改訂18版（南江堂）									
実務経験に 関する記述	20年以上臨床経験を持つ神経内科学領域の専門医が、具体的な症例を提示し、実践的教育を行う。									

授業科目名	精神医学		(フリガナ) 担当教官名	和 氣 玲				
開講学期	前期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	精神疾患の概要と治療法について学ぶ。 面接、診断方法を学び、本人とその家族をどう支援するのかについても理解する。							
到達目標	①精神疾患の概要と取り巻く環境の基本的知識について理解できる。 ②精神疾患について症状、原因、経過、治療、対応法について理解できる。							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	序説・第1章 精神医学とは 第2章 精神障害の成因と分類						和氣	
2	第3章 精神機能の障害と精神症状 第4章 精神障害の診断と評価						和氣	
3	第5章 脳器質性精神障害 第6章 症状性精神障害						和氣	
4	第7章 精神作用物質による精神および行動の障害						和氣	
5	第8章 てんかん						和氣	
6	第9章 統合失調症およびその関連障害						和氣	
7	第10章 気分(感情)障害						和氣	
8	第11章 神経症性障害						和氣	
9	第12章 生理的障害および身体的要因に関連した障害 第13章 成人の人格・行動・性の障害						和氣	
10	第14章 精神遅滞 第15章 心理的発達の障害						和氣	
11	第16章 コンサルテーション・リエゾン精神医学						和氣	
12	第17章 心身医学 第18章 ライフサイクルにおける精神医学						和氣	
13	第19章 精神障害の治療とリハビリテーション						和氣	
14	第20章 精神科保健医療と福祉、職業リハビリテーション 第21章 社会・文化とメンタルヘルス						和氣	
15	試験						和氣	
アクティブ ラーニング								
評価基準	期末試験(60%)、出席状況や参加態度(40%)							
教科書	「標準理学療法学・作業療法学(専門基礎分野)精神医学」第4版 増補版 上野武治 編集 医学書院							
参考書	適宜紹介および資料配布							
実務経験に 関する記述	精神保健指定医、臨床心理士、公認心理師などの資格を持ち、精神科病院で常勤医として20年以上臨床診療に携わる医師が実践的な教育を行う。							

授業科目名	小児科学		(フリガナ) 担当教官名	タケ 竹	タニ 谷	タケシ 健		
開講学期	後期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの特性・正常発達、小児保健の概要を説明する。 ・小児の疾患を説明して、原因、症状、検査、治療、管理を説明する。 							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小児の特徴を理解する。 ・小児の正常な発育・発達を理解する。 ・小児の各種疾患の病態、症状、治療法を理解する。 							
回数	授業内容						担当	
1	小児科概論						竹谷 健	
2	小児保健						竹谷 健	
3	小児の診断と治療						竹谷 健	
4	小児の感染症・呼吸器						竹谷 健	
5	小児の循環器						竹谷 健	
6	小児のけいれん疾患						竹谷 健	
7	小児の腎・泌尿器・消化器						竹谷 健	
8	小児の内分泌						竹谷 健	
9	新生児・未熟児						竹谷 健	
10	小児の免疫・アレルギー						竹谷 健	
11	小児の血液・腫瘍						竹谷 健	
12	小児の神経・筋疾患						竹谷 健	
13	先天異常、奇形						竹谷 健	
14	重症心身障害児						竹谷 健	
15	小児科まとめ						竹谷 健	
16	試験						竹谷 健	
アクティブ ラーニング								
評価基準	試験 90%、出席日数・授業態度 10%							
教科書	ナースとコメディカルのための小児科学 改訂第6版 へるす出版							
参考書	小児科学 改定第10版 文光堂							
実務経験に 関する記述	小児科専門医の認定を持ち、大学病院で臨床診療に携る医師が、日々の診断で経験した症例や体験談、模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。							

授業科目名	リハビリテーション栄養学		(フリガナ) 担当教官名		名和田 清 子		
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	リハビリテーションを行っている障がい者や高齢者の多くに、低栄養を認めることが明らかとなってきた。本科目では、リハビリテーションと栄養の関連を理解し、障がい者や高齢者の栄養管理を関連職種と連携して行うための知識と技術を習得することを目的とする。具体的には、栄養の概念とその役割を学ぶとともに、栄養管理の実践に必要な栄養補給法や栄養管理プロセス、多職種連携等について学修する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養の概念と意義について説明できる。 ・リハビリテーションと栄養の関連、障がい者や高齢者等における栄養管理の意義について説明できる。 ・リハビリテーション栄養管理プロセスについて説明できる。 ・NST (Nutrition Support Team) における理学療法士・作業療法士の役割、関連職種との連携の意義を理解する。 						
回数	授 業 内 容						担 当
1	栄養とは 日本人の食生活と栄養素摂取量、健康の現状と課題						名和田清子
2	栄養とは 主な栄養素とその役割、栄養と人体						名和田清子
3	必要栄養素量の算出 日本人の食事摂取基準、エネルギー消費量 栄養補給法						名和田清子
4	リハビリテーションと栄養 リハビリテーション栄養チームにおける PT・OT・ST の役割						名和田清子
5	リハビリテーションと栄養、栄養ケアプロセスとリハビリテーション栄養ケアプロセス						名和田清子
6	低栄養 障がい者・高齢者の栄養管理						名和田清子
7	主な疾患のリハビリテーション栄養 サルコペニアの摂食嚥下障害						名和田清子
8	主な疾患のリハビリテーション栄養 脳卒中他						名和田清子
9	試験						名和田清子
アクティブラーニング	栄養療法のチームアプローチにおける理学療法士・作業療法士の役割、関連職種との連携の意義についてグループワークを中心に学修し、発表を行う。						
評価基準	期末試験 90%、平常点 (授業への参加態度、準備学修の程度、提出物など) 10%						
教科書	PT・OT・ST のための リハビリテーション栄養 第3版 基礎からリハ栄養ケアプロセスまで 若林秀隆 著 医歯薬出版社						
参考書	リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 栢下淳・若林秀隆 編著・医歯薬出版社						
実務経験に関する記述	国立大学付属病院にて 21 年間の管理栄養士としての実務経験を有すると同時に、国立大学内科での 15 年間の実践研究の実績を有する教員が具体的な事例を提示し、実践的教育を行う。						

授業科目名	薬理学		(フリガナ) 担当教官名		直 良 浩 司		
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	薬物療法においては、薬物を投与したときに生じる生体側の反応と、投与された薬物の生体内での変化の両方を考える必要がある。薬物治療に用いられる主要な薬物について、薬理作用、薬物動態ならびに臨床使用上の注意を概説する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各疾病において使用されている主な薬物について、その作用機序を理解する。 2. 各疾病において使用されている主な薬物について、体内動態、副作用、適応上の留意事項などの知識を理解する。 3. 薬物療法の知識が理学療法・作業療法を受ける患者のケアに応用できる。 						
回数	授 業 内 容						担 当
1	総論1：薬物療法の概念、薬物の体内動態						直良浩司
2	総論2：薬効に影響する因子、薬物の有害作用						直良浩司
3	各論1：抗感染症薬、抗がん薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬						直良浩司
4	各論2：末梢神経系作用薬（交感神経作用薬、副交感神経作用薬、筋弛緩薬）、中枢神経系作用薬（催眠薬、抗不安薬、抗精神病薬）						直良浩司
5	各論3：中枢神経系作用薬（抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬、認知症治療薬、麻薬性鎮痛薬）						直良浩司
6	各論4：循環器系作用薬（抗高血圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬）						直良浩司
7	各論5：循環器系作用薬（利尿薬、血液・造血器系作用薬）						直良浩司
8	各論6：呼吸器系作用薬、消化器系作用薬、物質代謝作用薬						直良浩司
アクティブ ラーニング							
評価基準	出席状況 20%、期末試験 80%						
教科書	適宜講義資料を配付する。						
参考書	「系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学」(第15版) 医学書院 「PT・OTのための治療薬ガイドブック：リハビリテーション実施時の注意点」(第1版) メジカルビュー社						
実務経験に 関する記述							

授業科目名	医療安全・救急救命技術論		(フリガナ) 担当教官名		タニ グチ カオリ 谷 口 かおり ・ 奥出雲町消防士		
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義・ 実技	必修・選択 の別	必修
科目概要	<p>【医療安全】 医療の専門職として、医療事故、医療過誤に関する知識を学び、対象者に質の高い、安全な理学療法、作業療法を保證できる能力を養う。</p> <p>【救命救急技術論】 医療人として必要な応急手当や心肺蘇生法についての知識・技術を学ぶ。</p>						
到達目標	<p>【医療安全】 事例をもとに医療安全に必要な知識を身に付け、医療の専門職としての責務を自覚することができる。</p> <p>【救命救急技術論】 心肺蘇生法および止血法や自動体外式除細動器（AED）について正しく理解し、普通救命講習Ⅱの資格を取得することができる。</p>						
回数	授 業 内 容						担 当
1・2・3	応急手当の重要性 心肺蘇生法、止血法について 心肺蘇生法に関する知識および技術の確認						奥出雲町 消防士
4	医療安全の基礎知識						谷口かおり
5	医療従事者の法的責任						谷口かおり
6	Team STEPPS						谷口かおり
7	Team STEPPS						谷口かおり
8	グループワーク・まとめ						谷口かおり
アクティブ ラーニング	医療事故の事例から、チーム医療としての必要な安全対策をグループワークで実施する。						
評価基準	認定試験 100% 講義への参加・意欲 40%、グループワークで学修および発表 60%						
教科書	医療安全 多職種でつくる患者安全をめざして 看護学テキスト Nice 改訂第2版 南江堂						
参考書	適宜配布する						
実務経験に 関する記述	<p>【医療安全】 医療安全では、看護師として大学病院で急性期医療に16年、診療所での在宅医療・慢性期医療に3年の臨床経験を持つ教員が、あらゆる臨床現場での医療安全について、医療過誤の事例などを提示し、実践的教育を行う。</p> <p>【救命救急技術論】 救急救命では、救急救命士の資格を持つ消防士が講師として、全国统一カリキュラムの中でAEDの使用手法や、心肺蘇生法等について実技を踏まえて教授し、普通救命講習Ⅱの資格を取得する。</p>						

授業科目名	老年学		(フリガナ) 担当教官名		エン ドウ タケ シ 遠 藤 健 史		
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	<p>高齢者は、各組織の劣化がみられる。それにより、単純な組織変化だけでも多岐にわたる。そしてその結果、運動・認知機能低下により各種の生活困難がみられる。その困難因子は想像すること、高齢者を視ること学ぶことができるが、多く学生はそれに気づいていないと思われる。本科目で学ぶことも重要であるが、より大事なものは、これから高齢者と関わるなかで高齢者の特徴を発見し続ける態度を身につけることである。そして、その特徴に合わせた対策を検討することが将来の高齢者リハビリ診療を作る根幹となることを期待する。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の身体的・認知的な特徴を述べるができる。 ・それにより起きる障害を予測することができる。 ・身体機能、認知機能に障害をもつ高齢者のリハビリテーションのあり方を検討することができる。 ・老年学の知識を活用し、高齢化社会における課題解決について考えることができる。 						
回数	授 業 内 容					担 当	
1	高齢者の衰弱する身体					遠藤健史	
2	退院調整会議：退院に必要な評価と対策					遠藤健史	
3	リハビリを困難にする因子：炎症・せん妄					遠藤健史	
4	致死的な疾患					遠藤健史	
5	よい看取り、触れる効果、Humanitude					遠藤健史	
6	情報取得の方法					遠藤健史	
7~8	試験の内容を想定した内容について、グループワークを行う。現時点で想定しているのは、退院調整や良い看取りのために何を準備すべきか、という内容である。					遠藤健史	
アクティブ ラーニング	学習内容を理解し、認知症の概念と対応について、認知症の各病型の具体的な問題点と対応策について、グループワークを行い学習を深める。						
評価基準	出席点が20%、試験80%で判定し、合計60%以上を単位認定する。60%に満たない場合は、1回に限り再試験を行う。						
教科書	適宜資料を配布する						
参考書	老年医学テキスト第3版（日本老年医学会編 メジカルビュー社） 標準理学療法学・作業療法学・老年学（第4版）（奈良 勲ら監修、医学書院）						
実務経験に 関する記述	隠岐、邑智、雲南、奥出雲と高齢化先進地域で勤務。内科的診療を中心とし、認知症対策、運動器疼痛対策をサブスペシャリティーとしてきた。現在、奥出雲病院では総合診療科として、その診療の延長を行い、地域作りに貢献したいと考えている。						

授業科目名	医療コミュニケーション演習		(フリガナ) 担当教官名		ヤマモト マリ子		
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	理学療法士・作業療法士の関わりは、個人や集団の意思決定に影響を与える。本科目では、理学療法士・作業療法士に求められる高度なコミュニケーション能力の必要性、重要性について理解を深め、演習を通して対象者の意思決定に必要なコミュニケーション技能を養う。加えて、チーム連携の上で必要な多職種間でのコミュニケーションについても学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療現場におけるコミュニケーションの基本理論を理解し説明できる。 ・患者及び他職種の思いを引き出すことができる。 ・他者に意思を伝え、意思決定をすることができる。 						
回数	授業内容						担当
1	多職種連携について、コミュニケーション論、チーム医療論での学びについて振り返り、医療コミュニケーション演習の目的、概要について説明する。						山本真理子
2	両学科の学生同士で、テーマ1に対し感じたこと、考えたことについてディスカッションをし、まとめる。(目的を持ったコミュニケーションを試みる。)						山本真理子
3	両学科の学生同士で、テーマ2に対し感じたこと、考えたことについてディスカッションをし、まとめる。(目的を持ったコミュニケーションを試みる。)						山本真理子
4	両学科の学生同士で、テーマ3に対し感じたこと、考えたことについてディスカッションをし、まとめる。(目的を持ったコミュニケーションを試みる。)						山本真理子
5	両学科の学生同士で、テーマ4に対し感じたこと、考えたことについてディスカッションをし、まとめる。(目的を持ったコミュニケーションを試みる。)						山本真理子
6	両学科の学生同士で、課題1に対し感じたこと、考えたことについてディスカッションをし、まとめる。(目的を持ったコミュニケーションを試みる。)						山本真理子
7	グループ討論の中でさまざまな立場や考え方があることを理解し、自分の考えをまとめ、報告し合う。加えて、グループ検討上での話し手・聴き手・環境の面から良かった点、難しかった点、改善点を挙げ、まとめる。						山本真理子
8	両学科の学生同士で、課題2に対し感じたこと、考えたことについてディスカッションをし、まとめる。(目的を持ったコミュニケーションを試みる。)						山本真理子
9	グループ討論の中でさまざまな立場や考え方があることを理解し、自分の考えをまとめ、報告し合う。加えて、グループ検討上での話し手・聴き手・環境の面から良かった点、難しかった点、改善点を挙げ、まとめる。						山本真理子
10~11	両学科の学生同士で、症例の課題1に対し感じたこと、考えたことについてディスカッションをし、まとめる。(目的を持ったコミュニケーションを試みる。)						山本真理子
12	グループ討論の中でさまざまな立場や考え方があることを理解し、自分の考えをまとめ、報告し合う。加えて、グループ検討上での話し手・聴き手・環境の面から良かった点、難しかった点、改善点を挙げ、まとめる。						山本真理子
13	両学科の学生同士で、症例の課題2に対し感じたこと、考えたことについてディスカッションをし、まとめる。(目的を持ったコミュニケーションを試みる。)						山本真理子
14	グループ討論の中でさまざまな立場や考え方があることを理解し、自分の考えをまとめ、報告し合う。加えて、グループ検討上での話し手・聴き手・環境の面から良かった点、難しかった点、改善点を挙げ、まとめる。						山本真理子
15	まとめ						山本真理子
アクティブ ラーニング	医療、地域の現場における医療コミュニケーションについて、グループワーク型式を中心に学習し、発表を行う。						
評価基準	授業内での態度(積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況等)及び課題から総合評価 100%						
教科書	内山靖ほか(著)『コミュニケーション論・多職種連携論』(医歯薬出版株式会社)						
参考書	京極真(著)『信念対立解明アプローチ入門-チーム医療・多職種連携の可能性をひらく』(中央法規出版) 水本清久ほか(編著)『インタープロフェッショナル・ヘルスケア 実践チーム医療論 実際と教育プログラム』(医歯薬出版)						
実務経験に 関する記述	総合病院で専任作業療法士として従事し、その後、地域の拠点づくりに関わった経験を持つ教員が、地域の自主組織を連携し、住民の健康維持に向けた運動や作業の取り組みを支援する方法について、体験談や事例を踏まえて実践的教育を行う。						

授業科目名	理学療法概論Ⅱ		(フリガナ) 担当教官名		ハシ ムラ コウ シニ 橋 村 康 二		
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	<p>本科目では、理学療法士としてのキャリア選択のための思考を身に付け、将来についての具体的な行動計画を立案する。加えて、理学療法業務の理解として、対象者の問題点のとらえ方の思考や医療人として基本となる感染対策や医療事故の対策、加えて、実際の施設で取り組まれているクリニカルパスといった仕組み、診療報酬制度などの社会的仕組みについて学ぶ。</p>						
到達目標	<p>①キャリア選択のための思考を身に付け、将来についての具体的な行動計画を立案することができる。 ②ICIDH と ICF の概念が説明でき、対象者の問題点の整理ができる。 ③基本的感染対策について説明でき、スタンダードプリコーションを実践できる。 ④クリニカルパスの基本概念を説明できる。 ⑤診療報酬や介護報酬の概要を説明できる。</p>						
回数	授 業 内 容						担 当
1～2	PTとしてのキャリアデザイン						橋村
3～4	国際障害分類、国際生活機能分類の理解 ・問題点の整理の思考（ICIDH と ICF の概念理解と活用） ・演習：「対象者の問題点の整理」						橋村
5～6	感染対策と医療事故の対策						橋村
7	クリニカルパスの理解						橋村
8	医療保険、介護保険下における報酬制度の理解						橋村
アクティブ ラーニング	個人ワークやグループワークを行う。						
評価基準	定期試験 70%、実技試験 10%、提出された成果物の内容 20%で評価し、100%中 60%以上を単位認定する。 全体評価が 60%未満のものあるいは定期試験が 60 点未満のものに関しては 1 回に限り再試験を行う。						
教科書	理学療法概論 第4版（神陵文庫） 適宜資料を配布する						
参考書	特になし						
実務経験に関する記述	急性期や回復期リハ、外来リハ、訪問リハ等多分野において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かした事例等を盛り込み講義、演習を行う。						

授業科目名	研究方法論Ⅱ（研究計画）		（フリガナ） 担当教官名	橋 ^{ハシ} 村 ^{ムラ} 康 ^{コウ} 二 ^ジ			
開講学期	前期・後期			他 理学療法学科教員全員			
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年	時間数 単位数	60 2	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	本科目では、研究デザインの種類、研究計画書の書き方や理学療法士としての研究デザインに対応した統計処理方法を学ぶ。その後、研究テーマを具体的に設定し、研究計画書作成の演習を行う。これらを通じ、基礎的な理学療法研究能力を育成する。本科目で立案した研究計画に基づき、3年生の研究方法論Ⅲでは研究の実施と論文執筆を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 研究デザインの種類や研究の流れ、基本的統計手法を説明でき、実際に論文検索を行い検索した論文の内容を理解できる。 研究テーマを設定し、研究計画に必要な論文を検索し理論建て研究計画を立案できる。 立案した研究計画を研究計画書として作成し提出することに加え、プレゼンテーション資料を作成し発表できる。 協働研究者間で協力し課題を遂行できる。 						
回数	授 業 内 容						担 当
1	オリエンテーション 授業の意義目的、到達度を理解する						橋村康二
2～3	【前期】 研究論文構成の理解 講義や研究論文の抄読を通じて、研究論文の基本的構成を理解する						橋村康二
4～5	研究デザインの理解 講義を通じて研究デザインの種類を理解し、各研究デザインに関する論文を検索し抄読する。						橋村康二
6	基本的統計学の理解 二群間比較と多群間比較、相関分析と多変量解析						橋村康二
7	研究倫理 研究に関する倫理について講義する 研究の進め方 研究の基本的進め方について講義する						橋村康二
8～9	研究テーマの模索 グループに分かれ興味のある分野の研究論文を検索し読み、研究テーマを模索する						橋村康二
10	【後期】 オリエンテーション 後期授業の流れ、到達度、各グループの担当教員の配置の説明						PT 学科教員
11～28	研究デザイン、研究計画書の作成 グループに分かれ担当教員の指導のもと研究デザイン、研究計画書の作成を行う						PT 学科教員
29～30	発表						橋村康二
アクティブ ラーニング	グループワークにて研究計画書の作成、およびプレゼンテーションを行う。						
評価基準	授業への出席状況・態度:20%、研究計画書:50%、プレゼンテーション:30%で判定し、60%以上で単位を認定する。 ※上記に関わらず、期日までに研究計画書を提出しなかった場合は単位を認めない。						
教科書	適宜資料を配布する						
参考書	特になし						
実務経験に 関する記述							

授業科目名	理学療法検査測定法Ⅱ		(フリガナ) 担当教官名		ヤマサキケンジ・ゴトウトモキ 山崎健治・後藤智基			
開講学期	前期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修	
科目概要	理学療法評価の意義と目的を理解し、評価測定技術を習得することを目的とする。具体的には徒手筋力検査、感覚検査、深部腱反射検査、意識レベル検査の技術・技能を獲得させる。授業形態は、実技・演習を中心に実施する。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法評価の目的、意義、機能について理解する。 ・理学療法の場面で、対象者に対して、面接、問診、情報収集、インフォームドコンセントを適切に実践することができる。 ・理学療法の場面で、対象者に対し、徒手筋力検査、感覚検査、深部腱反射検査、意識レベル検査をリスク管理に配慮しながら円滑に実施することができる。 							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	オリエンテーション（本科目の到達目標、内容、日程等）						山崎・後藤	
2	徒手筋力検査①（概論 徒手筋力検査の意義、目的、方法）						山崎・後藤	
3	徒手筋力検査②（肩関節、肘関節、前腕）						山崎・後藤	
4	徒手筋力検査③（肩甲帯、手関節）						山崎・後藤	
5	徒手筋力検査④（股関節）						山崎・後藤	
6	徒手筋力検査⑤（膝関節、足関節、足部）						山崎・後藤	
7	徒手筋力検査⑥（頸部、頭部）						山崎・後藤	
8	徒手筋力検査⑦（体幹）						山崎・後藤	
9	感覚検査①（概論 感覚検査の意義、目的、方法、分類）						山崎・後藤	
10	感覚検査②（表在感覚・深部感覚・複合感覚）						山崎・後藤	
11	深部腱反射検査①（概論 深部腱反射検査の意義、目的、方法）						山崎・後藤	
12	深部腱反射検査②（上肢・下肢・表在反射・病的反射）						山崎・後藤	
13	脳神経検査						山崎・後藤	
14	症例検討						山崎・後藤	
15								
アクティブ ラーニング	能動的な学習を促すために、教科書に付属してある Web 動画での事前学習や小テストを取り入れる。							
評価基準	前半（1～8コマ）と後半（9～13コマ）に分けてテストを実施し、前半と後半合わせて100点満点中60点以上を合格とする。それぞれのテスト内容は小テスト（30%）、実技試験（70%）にて評価する。 ※総授業回数の4分の1以上の欠席を未修とする。							
教科書	松澤 正・江口勝彦（著）『理学療法評価学 改訂第6版』（金原出版） 新・徒手筋力検査法 原著第10版（協同医書出版）							
参考書	内山 靖（編集）『標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学 第2版』（医学書院） 適宜資料配布							
実務経験に 関する記述	総合病院において、専任理学療法士として従事し、急性期病棟、回復期病棟における身体障害および老年期障害に対する個別理学療法を実践した教員が中心となり、理学療法検査法の基礎から、障害や症状に応じた応用・代償方法についても具体的な事例を提示し、実務教育を行う。							

授業科目名	画像評価学		(フリガナ) 担当教官名		堀江貴文		
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	理学療法対象疾患である中枢神経疾患、神経筋疾患、運動器疾患、呼吸器疾患の画像所見によりその病態や症状を予想・判断することが可能である。そのため画像所見は患者の理学療法評価の選択・治療プログラム立案する上で有用な情報となる。本科目ではこれらの疾患に対する画像診断装置（エックス線、MRI、CT、血管造影映像）読影技術を学び、障害部位から予想される病態・症状を関連づけ、予後予測を行い、理学療法評価を選択する能力を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各疾患における画像診断の意義・重要性について説明できる。 運動器疾患画像の読影法と障害部位から予想される病態・症状を説明することができる。 運動器疾患画像から病態・症状を予測し、理学療法評価を抽出させる。 脳血管疾患画像の読影法と障害部位から予想される病態・症状を説明することができる。 脳血管疾患画像から病態・症状を予測し、理学療法評価を抽出させる。 循環器疾患画像（CT撮影、MRI撮影）の読影法と障害部位から予想される病態・症状を説明することができる。 循環器疾患画像（CT撮影・MRI撮影）から病態・症状を予測し、理学療法評価を抽出させる。 運動器疾患画像（CT撮影・MRI撮影）の読影法と障害部位から予想される病態・症状を説明することができる。 運動器疾患画像（CT撮影・MRI撮影）から病態・症状を予測し、理学療法評価を抽出させる。 						
回数	授業内容						担当
1	画像評価の意義						堀江貴文
2	脊髄、脊椎疾患画像（CT撮影・MRI撮影）の読影法						堀江貴文
3	骨関節変性疾患（単純エックス線撮影、CT撮影、MRI撮影）の読影法						堀江貴文
4	靭帯断裂、腱断裂、骨折（MRI撮影、単純エックス線撮影）の読影法						堀江貴文
5	脳血管疾患（CT撮影、MRI撮影、血管造影映像）の読影法						堀江貴文
6	循環器疾患（CT撮影、MRI撮影）の読影法						堀江貴文
7	呼吸器疾患（CT撮影、単純エックス線撮影）の読影法						堀江貴文
8	画像症例の提示 グループディスカッション						堀江貴文
アクティブ ラーニング	各疾患の基本的な病態・症状については予習しておくこととする。画像症例を用いてグループディスカッションにて予想される病態・症状から予後予測を行い、理学療法評価を選択し、発表する。						
評価基準	<p>期末試験 70%、グループワークの取り組み姿勢 20%、出席日数 10%にて評価する。</p> <p>期末試験においては 100 点満点中 60 点以上を合格とし、60 点未満は再試験を受験することが出来る。</p> <p>総合計の 60% 以上を単位認定とする。</p>						
教科書	中島雅美、中島喜代彦編「PT・OT 基礎から学ぶ画像の読み方」医歯薬出版 第3版 石蔵礼一監修 野崎園子、安藤久美子編著「一目でわかる脳の MRI 正常解剖と機能」秀潤社 2015 年						
参考書	PTOTST 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 画像評価（医学書院） リハで読むべき運動器画像（メジカルビュー社）						
実務経験に関する記述	総合病院において、7年間専任理学療法士として従事し、回復期病棟、医療療養病棟、外来における身体障害および老年期障害に対する個別理学療法を实践した教員が、画像評価学の基礎から、障害部位から予想される病態・症状を具体的な事例から実践的に学ばせる。						

授業科目名	動作分析学		(フリガナ) 担当教官名		ヤマ	サキ	ケン	ジ	ゴ	トウ	トモ	キ
開講学期	後期				山	崎	健	治	・	後	藤	智
対象学科 及び学年	理学療法学科	2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習		必修・選択 の別	必修			
科目概要	1年次に学習した人体の構造や機能と身体運動（基本的動作）との関係をさらに発展させ、基本的動作能力の構成要素と疾病の病態、機能障害の関係を学習する。											
到達目標	各基本的動作の相、重心移動、筋活動、関節運動、モーメント、その他特徴を理解し、説明することができる。 運動を数値化する機器（床反力計、重心動揺計、2次元動作解析装置、3次元動作解析装置）の結果と身体運動（基本的動作）の関係を考えることができる。 機能障害と基本的動作能力、疾病の病態との関係を、思考図と文章を用いて表現することができる。											
回数	授 業 内 容										担 当	
1	基本的動作と運動力学の基礎① (基本的動作の種類、構成要素である相、重心移動、床反力作用線、内的・外的モーメント、筋活動)										山崎・後藤	
2	運動力学の基礎②（各機器の測定結果と意味）										山崎・後藤	
3	基本的動作能力の構成要素と機能障害の関与と思考図、文章の作成方法										山崎・後藤	
4	講義 正常歩行動作の観察										山崎・後藤	
5	演習 歩行動作の分析 (模擬症例：中枢神経疾患、整形外科疾患、神経筋疾患、虚弱高齢者)										山崎・後藤	
6	講義 正常立ち上がり動作の観察と分析										山崎・後藤	
7	演習 立ち上がり動作の観察と分析 (模擬症例：中枢神経疾患、整形外科疾患、神経筋疾患、虚弱高齢者)										山崎・後藤	
8	講義 正常立位保持動作の観察と分析										山崎・後藤	
9	演習 座位保持動作の観察と分析 (模擬症例：中枢神経疾患、整形外科疾患、神経筋疾患、虚弱高齢者)										山崎・後藤	
10	講義 正常起き上がり動作の観察										山崎・後藤	
11	演習 起き上がり動作の観察と分析 (模擬症例：中枢神経疾患、整形外科疾患、神経筋疾患、虚弱高齢者)										山崎・後藤	
12	講義 正常寝返り動作の観察										山崎・後藤	
13	演習 寝返り動作の観察と分析 (模擬症例：中枢神経疾患、整形外科疾患、神経筋疾患、虚弱高齢者)										山崎・後藤	
14	課題の振り返りと発表準備										山崎・後藤	
15	グループ発表										山崎・後藤	
アクティブ ラーニング	グループワーク形式の演習を行う。											
評価基準	課題の成果物：70% 出席日数：10% 授業態度：20%											
教科書	動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 第1版（メジカルビュー社） 訳／月城慶一 他「観察による歩行分析」医学書院											
参考書	運動学実習マニュアル 第3版（アイベック）											
実務経験に 関する記述	急性期、回復期、地域包括ケア、外来リハビリテーションを提供する総合病院に4年間、外来クリニックに2年間、理学療法士として従事し、多様な疾患に個別理学療法を実践した教員が、能力低下と機能障害の関係を講義・実践を通じて教授する。											

授業科目名	物理療法 I		(フリガナ)		ヤマサキケンジ		
開講学期	前期		担当教官名		山崎健治		
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	物理療法学の概論として、物理療法の歴史と分類や各治療手段の物理学的特性を学ぶ。さらに、物理療法の対象となる疾患・障害の概要と物理療法が生体に与える生理学的影響の概要を学ぶ。また、物理療法の適応・禁忌および注意事項の基礎を確認する。各論として、温熱療法・寒冷療法の理論と実際、さらに光線、電磁波の基本的性質を学ぶ。さらに、温熱療法、寒冷療法、光線療法、電磁波療法の具体的治療手段の実際について学ぶ。各治療機器を用いた実技・実習として、治療者と被験者の両者を経験し、治療時の生体反応を簡便な計測機器を用いて確認を行う。						
到達目標	炎症の徴候や組織修復のメカニズムを理解し、各病態に対して適応となる物理療法を選定出来る。 痛みの発生機序や分類について理解し、痛みの状況に合わせ適切な物理療法を選定出来る。 温熱療法、寒冷療法、光線療法、電磁波療法の生理学的作用、効果の説明が出来る。温熱療法、寒冷療法、光線療法、電磁波療法を、リスク管理を踏まえた上で適切かつ円滑に実施出来る。						
回数	授業内容						担当
1	オリエンテーション (本科目の到達目標、内容、日程、等)						山崎健治
2	物理療法 (概論、炎症と組織修復、炎症に対する物理療法生理学的作用、痛みの発生機序と分類)						山崎健治
3	温熱療法概論 (熱物理学、温熱療法の分類と適応・禁忌、ホットパック、パラフィン浴)						山崎健治
4	寒冷療法概論 (寒冷による生体への影響、生理学的作用と適応・禁忌、アイスパック、コールドパック、クリッカー、コールドスプレー)						山崎健治
5~6	電磁波療法概論 (電磁波の特性と生体への影響、生理学的作用、適応・禁忌、極超短波療法、超短波療法)						山崎健治
7~8	光線療法概論 (光の性質、光線の生理学的作用、適応・禁忌、赤外線療法、紫外線療法、レーザー療法)						山崎健治
9~10	温熱療法実習 (ホットパック、パラフィン浴)						山崎健治
11	寒冷療法実習 (アイスパック、コールドパック、クリッカー、コールドスプレー)						山崎健治
12~13	電磁波療法実習 (極超短波療法、超短波療法)						山崎健治
14~15	光線療法実習 (赤外線療法、紫外線療法、レーザー療法)						山崎健治
アクティブ ラーニング	各物理療法における生理学的作用、適応・禁忌に関する講義は、動作を用いて事前学習を行わせ、授業毎に小テストを取り入れる。実技については、実践や動画を用いての学習を繰り返し技術の習得を目指す。実技についても動画を用いて学習、実践を繰り返し技術の修得を目指す。						
評価基準	筆記試験・実技試験ともに合格したものを単位認定とする。 【配点】 小テスト 10% 期末試験 90% (筆記試験 70%、実技試験 20%) にて評価する。 総合計の 60% 以上を単位認定とする。 【筆記試験】 授業内容の知識の定着を確認する。授業内の分野の講義時間数に応じた配点とする。期末試験においては 100 点満点中 60 点以上を合格とし、60 点未満は再試験を受験することが出来る。 【実技試験】 授業開始時に別途配布する。 ※総授業回数の 3 分の 1 以上の欠席を未修とする。						
教科書	理学療法学テキストⅨ 物理療法 第2版 (九州神陵文庫) PT・OT ビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第1版 (羊土社)						
参考書	EBM 物理療法 原著第5版 (医歯薬出版) 標準理学療法学 物理療法学 第4版 (医学書院) 物理療法マニュアル (医歯薬出版)						
実務経験に関する記述	回復期病院、訪問リハビリにて6年間臨床経験を持つ教員が、各物理療法の生理学的作用とリスクを勘案して、適切な物理療法機器の選択と物理療法機器の操作法について実技的な教育を行う。						

授業科目名	物理療法Ⅱ		(フリガナ) 堀江貴文				
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	物理療法手段の各論として、水が身体に与える生理学のおよび力学的影響を学ぶ。さらに水治療法、電気刺激療法、牽引療法、超音波療法の基礎理論について学ぶ。その上で電気刺激療法、牽引療法、超音波療法、水治療法の具体的治療技術を学ぶ。各治療機器を用いた実技・実習として、治療者と被験者の両者を経験し、治療時の生体反応を簡便な計測機器を用いて確認を行う。						
到達目標	電気刺激療法、牽引療法、超音波療法、水治療法の生理学的作用、効果を説明出来る。電気刺激療法、牽引療法、超音波療法、水治療法を、リスク管理を踏まえた上で適切かつ円滑に実施出来る。						
回数	授業内容						担当
1	オリエンテーション (本科目の到達目標、内容、日程、等)						堀江貴文
2	電気刺激療法概論① (電気刺激の物理学、生理学的作用、治療目的と効果、適応・禁忌、各種電気刺激療法の分類)						堀江貴文
3	電気刺激療法概論② (TENS、EMS、干渉波療法、SSP療法)						堀江貴文
4	電気刺激療法実習 (TENS、EMS、干渉波療法、SSP療法)						堀江貴文
5	超音波療法概論① (超音波の生理学的作用と特徴、キャビテーション、BNR、ERA、適応・禁忌)						堀江貴文
6	超音波療法概論② (直接法と水中法、温熱作用と非温熱作用、それぞれの実施方法と注意点)						堀江貴文
7	超音波療法実習						堀江貴文
8	水治療法概論① (水の物理学、水治療法の分類、生理学的作用、治療目的と効果、適応・禁忌)						堀江貴文
9	水治療法概論② (渦流浴、気泡浴、ハバードタンク、プール浴)						堀江貴文
10	水治療法実習① (渦流浴、気泡浴、ハバードタンク)						堀江貴文
11	水治療法実習② (プール浴)						堀江貴文
12	牽引療法概論① (牽引療法の分類、生理学的作用、特徴、治療目的、治療効果、適応・禁忌)						堀江貴文
13	牽引療法概論② (頸椎牽引療法、腰椎牽引療法)						堀江貴文
14	牽引療法実習 (頸椎牽引療法、腰椎牽引療法)						堀江貴文
15	間欠的空気圧迫法 (概論・実習)						堀江貴文
アクティブ ラーニング	各物理療法における生理学的作用、適応・禁忌に関する講義は、動作を用いて事前学習を行わせる。実技についても動画を用いて学習、実践を繰り返し技術の修得を目指す。						
評価基準	【配点】 小テスト 10% 期末試験 90% (筆記試験 70%、実技試験 20%) にて評価する。 総合計の 60%以上を単位認定とする。 【期末試験 (ペーパー)】 授業内容の知識の定着を確認する。授業内の分野の講義時間数に応じた配点とする。期末試験においては 100 点満点中 60 点以上を合格とし、60 点未満は再試験を受験することが出来る。 【実技】 授業開始時に別途配布する。 ※総授業回数数の 3 分の 1 以上の欠席を未修とする。						
教科書	理学療法学テキストⅨ 物理療法 第2版 (九州神陵文庫) PT・OT ビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第1版 (羊土社)						
参考書	EBM 物理療法 原著第5版 (医歯薬出版) 標準理学療法学 物理療法学 第4版 (医学書院) 物理療法マニュアル (医歯薬出版) その他、適宜資料を配布する ※講義では、スライド資料を視聴する。						
実務経験に 関する記述	総合病院において、7年間専任理学療法士として従事し、回復期病棟、医療療養病棟、特殊疾患病棟、外来における身体障害および老年期障害に対する個別理学療法を実践した教員が、疾患および症状に応じた物理療法治療の介入について具体的な事例を提示し、実技を含めた実践的教育を行う。						

授業科目名	義肢学		(フリガナ) 担当教官名	オオ 大	ツカ 塚	アキラ 彰		
開講学期	後期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修	
科目概要	<p>下肢義肢・上肢義肢義肢（義足・義手）に関して、理学療法士・作業療法士に必要な基本的な知識を学修します。すなわち、義足においては基本的な構造、ソケットの種類、ベンチアライメント・静的アライメント・動的アライメントなどを学びます。義手に関しては、処方からパーツを考えて実習として、弾力包帯の施行とギプス採型の実験を経験します。</p>							
到達目標	<p>義肢の実際および切断のリハビリテーションの実際を理解する。</p>							
回数	授業内容						担当	
1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・義肢とは・大腿義足（ソケット、膝継手、足部） ・大腿義足（ベンチ・静的・動的アライメント） ・大腿義足（異常歩行とその修正） 						大塚 彰	
4・5・6	<ul style="list-style-type: none"> ・下腿義足（各種ソケット・アライメント・異常歩行） ・股義足・膝義足・サイム義足の特色 ・下肢切断者のリハビリテーション（評価・ポジショニング・断端ケアとしての弾力包帯の施行など） 						大塚 彰	
7・8・9	<ul style="list-style-type: none"> ・義手：分類・処方と義手構成・機構など（1） ・処方と構成・機構など部品の解説（2） ・機構と部品の解説（3） 						大塚 彰	
10・11・12	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーネスコントロールシステムなど ・義手のチェック ・電動義手 						大塚 彰	
13・14・15	<ul style="list-style-type: none"> ・実習（ギプス採型など） ・実習 ・実習 						大塚 彰	
アクティブ ラーニング	<p>ギプス採型実習および模擬義肢の試着 切断者を知るための経験として</p>							
評価基準	<p>出席、態度、テスト等で総合判定する</p>							
教科書	<p>① 15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 義肢学 中山書店 第2版 ISBN コード 978-4-521-73225-1 ② 義肢装具のチェックポイント 医学書院 第9版</p>							
参考書	<p>① イラストでわかる義肢療法 医歯薬出版株式会社</p>							
実務経験に 関する記述	<p>徳島大学付属病院・愛媛大学付属病院での切断者のリハビリテーションの経験および筋電制御電動義手、特にハンドの開発研究に従事</p>							

授業科目名	日常生活活動Ⅱ		(フリガナ) 担当教官名		ウチダ フミカ 内田 美美佳		
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	理学療法士が日常生活活動の評価と介入を行う目的を理解し、日常生活動作を評価する方法、維持・改善する介入方法を立案するための基礎理論を身に着ける。得た知識を利用して、代表的な疾患の日常生活活動を評価し、適切な日常生活活動を維持・改善する方法を学ぶ。						
到達目標	日常生活活動の構成要素を分解し、説明することができる。 自助具・福祉用具の適応と使用方法について理解し、説明することができる。 日常生活活動の介助方法を、健常者に実践できる。 日常生活活動の評価を行う目的を理解し、代表的な疾患の模擬症例に対して評価を行うことができる。 日常生活活動を維持・改善する方法を理解し、代表的な疾患の模擬症例の日常生活活動を維持・改善する方法を立案することができる。						
回数	授 業 内 容						担 当
1	オリエンテーション						内田美美佳
2～3	総論（日常生活動作の種類と要素の分解）						内田美美佳
4～6	整形外科疾患に対する ADL の評価と介入（人工骨頭置換術後）						内田美美佳
7～8	整形外科疾患に対する ADL の評価と介入（人工膝関節置換術後）						内田美美佳
9～10	整形外科疾患に対する ADL の評価と介入（関節リウマチ）						内田美美佳
11～13	神経筋疾患に対する ADL の評価と介入（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症）						内田美美佳
14～15	脳血管障害に対する ADL の評価と介入（被殻出血）						内田美美佳
アクティブ ラーニング	患者に対するペーパーペイシェントを用いたグループワーク形式で演習を行う						
評価基準	課題の成果物：70% 出席日数：10% 授業態度：20% ※総授業回数の3分の1以上の欠席を未修とする。						
教科書	日常生活活動学テキスト 改訂第3版 細田多穂 南江堂 脳卒中の機能評価 SIASとFIM [基礎編] 千野直一 金原出版						
参考書	適宜資料配布						
実務経験に 関する記述	回復期病院、訪問リハビリにて6年間臨床経験を持つ教員が、理学療法の治療介入過程に必要な、ADL 評価や福祉用具の使用選定、身のまわり動作について具体的な事例を提示し、実践的教育を行う。						

授業科目名	内科系治療学		(フリガナ) 担当教官名	スズ	キ	テツ	ウチ	ダ	フ	ミ	カ
開講学期	後期			鈴木	木	哲	内	田	美	美	佳
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年	時間数 単位数	60 2	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修				
科目概要	この科目では、内部障害における理学療法について学ぶ。心大血管疾患、呼吸器疾患、代謝疾患、がんにおける理学療法評価、治療理論、リスク管理等について理解し、基礎的な理学療法を実施できることを目標とする。加えて、喀痰等の吸引について理解するとともに、シミュレーターを用いた実習を通じ技術を修得する。										
到達目標	心大血管疾患、呼吸器疾患、代謝疾患、がんにおける理学療法評価、治療理論、リスク管理等について理解し、基礎的な理学療法を実施できる。 喀痰等の吸引における目的、実施方法、リスク管理等を理解し、シミュレーターを用いて実施できる。										
回数	授業内容									担当	
1	オリエンテーション 呼吸器に関する解剖・生理・運動学の復習									井上 魁	
2	呼吸不全、呼吸器疾患の理解									井上 魁	
3~5	呼吸器疾患のフィジカルアセスメント									井上 魁	
6~8	呼吸器疾患の対する理学療法アプローチ									井上 魁	
9	呼吸リハビリテーションの臨床の実際									井上 魁	
10	喀痰等の吸引「シミュレーターを用いた喀痰等の吸引の実際」									井上 魁	
11	オリエンテーション、代謝系の理学療法の理解									井上 魁	
12	エネルギー代謝の理解～酸素摂取量、消費カロリー、MET's～									井上 魁	
13~14	運動負荷試験の理解									井上 魁	
15~16	糖尿病の理解と、糖尿病に対する理学療法の理解									井上 魁	
17	オリエンテーション、循環器リハビリテーションの理解 課題提示（循環器の解剖、生理、運動）									鈴木 哲	
18	確認テスト（呼吸器系の解剖、運動、生理）									鈴木 哲	
19	心電図 実習：「心電図の測定と異常心電図の読解」									鈴木 哲	
20	虚血性心疾患の病態理解と理学療法									鈴木 哲	
21	心不全の病態理解と理学療法									鈴木 哲	
22	閉塞性動脈硬化症の病態理解と理学療法									鈴木 哲	
23	演習：「症例検討 循環器疾患患者に対する理学療法」発表、フィードバック									鈴木 哲	
24・25	臨床の実際									井上 魁	
26	腫瘍の定義と分類、悪性腫瘍の広がりや影響									内田美美佳	
27	腫瘍の発生病理、診断と治療、ガイドライン									内田美美佳	
28	がんリハビリテーション 概論									内田美美佳	
29	がんリハビリテーション 苦痛と対応									内田美美佳	
30	がんリハビリテーション 特徴・目的とリスク管理									道端ゆう子	
31	がんリハビリテーション リハビリテーションの実際									道端ゆう子	
アクティブラーニング	各疾患ごとのフィジカルアセスメントや症例検討等について演習を行う他、評価や治療アプローチについては実習を通じて知識を深めるとともに、技術を修得する。										
評価基準	定期試験70% 演習課題状況30%にて評価する。 ※呼吸器、代謝、循環器、がんそれぞれの分野毎に試験を行う。試験において60点未満は再試験を受験することができる。										
教科書	心臓リハビリテーション必携（日本心臓リハビリテーション学会） 内部障害理学療法学 呼吸 第3版（石川朗 編集 中山書店） 内部障害理学療法学 循環・代謝 第2版（石川朗 編集 中山書店）										
参考書	病期が見える Vol.2 循環器（Medic Media） 病理学 疾病のなりたちと回復の促進①（系統看護学講座 専門基礎 医学書院）										
実務経験に関する記述	呼吸・循環器・がんに対するリハビリテーションの臨床経験を有する教員が、臨床経験を通じて得た知識や技術を生かし、講義・演習・実習を行う。										

授業科目名	ヘルスプロモーション		(フリガナ) 担当教官名		ヤマサキケンジ 山崎健治		
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	ヘルスプロモーションは「人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである」と定義されている。 本科目では「健康」「教育」「医療」に着目し、人々の生活の質、QOL (Quality of Life) を高めるための取り組みや環境について学ぶ。						
到達目標	健康教育について理解し、説明できる。 健康増進、病気や障害予防、リハビリテーションについて理解し、基礎的な理学療法を 考えることができる。						
回数	授 業 内 容						担 当
1	健康・教育概念について						山崎健治
2	健康増進、病気の予防について						山崎健治
3	行動変容理論の理解						山崎健治
4	演習 生活習慣病予防に対する運動指導						山崎健治
5	演習 生活習慣病予防に対する運動指導						山崎健治
6	産業医学、産業理学療法について						山崎健治
7	演習 重労働、長距離運転、DVT (deep vein thrombosis) ワーカーに対する運動指導						山崎健治
8	演習 重労働、長距離運転、DVT (deep vein thrombosis) ワーカーに対する運動指導						山崎健治
9	演習 重労働、長距離運転、DVT (deep vein thrombosis) ワーカーに対する運動指導						山崎健治
10	ウィメンズヘルス 産前産後ケアについて						山崎健治
11	演習 産前産後ケアに対する運動指導						山崎健治
12	演習 産前産後ケアに対する運動指導						山崎健治
13	老年期治療について						山崎健治
14	演習 高齢者に対する運動療法指導						山崎健治
15	演習 高齢者に対する運動療法指導						山崎健治
アクティブ ラーニング	各疾患に対するペーパーペイシエントを用いたグループワーク形式で演習を行う。						
評価基準	グループワークへの取り組みと発表 40%、演習課題・レポート 40%、出席日数 20%						
教科書	適宜資料を配布する。						
参考書	適宜資料を配布する。						
実務経験に 関する記述	本科目はオムニバス形式である。 産業理学療法分野において理学療法士として業務に携わった経験を持つ教員が、障がい予防における指導方法および運動指導について、模擬事例を提示しながら実践的教育を行う。						

授業科目名	臨床実習 I		(フリガナ) 担当教官名	各臨床実習施設指導者・全専任教員			
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年	時間数 単位数	45 1	授業 形態	実習	必修・選択 の別	必修
科目概要	<p>本科目は、臨床実習施設において、実際の診療に参加しながら実践を通じて理学療法業務を学ぶ実習科目である。</p> <p>業務の見学や補助を通じて、理学療法士の業務について理解を深めるとともに、社会人、医療従事者として相応しい意識と患者（利用者）および臨床実習指導者をはじめとする臨床現場の職員に対する適切な態度を育成することを目的とする。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士の基本的な業務内容を理解できる。 ・関連職種との連携の重要性を理解できる。 ・掃除、送迎、雑用等の業務を補助できる（診療補助は除く）。 ・社会人、医療従事者として相応しい意識と患者（利用者）および指導者をはじめとする臨床現場の職員に対する適切な態度をとることができる。 						
授 業 内 容							担 当
<p>臨床実習</p> <p>時間：40 時間（1 週間：5 日間）</p> <p>場所：医療提供施設もしくは医療外施設</p> <p>内容：業務の見学や補助を通じて、理学療法士の業務について理解を深めるとともに、社会人、医療従事者として相応しい意識と患者（利用者）および臨床実習指導者をはじめとする臨床現場の職員に対する適切な態度を身に付ける。</p> <p>詳細な日程は、臨床実習要綱を参照。</p> <p>1 週間の施設実習時間は、40 時間とし、家庭学習時間を含め 45 時間以内とする。</p> <p>但し、家庭で自己学習を行う場合は、この限りではない。</p>							臨床実習 指導者
アクティブ ラーニング	各臨床実習施設において、診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）を行う。						
評価基準	<p>総括的評価は学院教員にて実施する。</p> <p>オリエンテーションへの出席状況や態度、臨床実習中の状況、臨床実習最終状況（評価による評価結果含む）、臨床実習後の提出課題内容、実習報告会の内容を総合的に評価し成績判定する。</p>						
教科書	島根リハビリテーション学院 理学療法学科 臨床実習要綱						
参考書							
実務経験に 関する記述	臨床実習指導者は、5 年以上実務に従事した者が担う。						

授業科目名	地域医療・健康増進		(フリガナ) 担当教官名		ウチダフミカ 内田美美佳		
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	我が国における高齢化の進展や疾病構造の変化に伴い、国民の健康増進と介護予防の重要性が増大し、これらに対する理学療法の介入が大きく期待されている。本講義では、特に高齢者に対する介護予防について学び、人々の健康寿命延伸に貢献できる基礎能力を習得する。						
到達目標	地域理学療法概念について理解できる。 医療保険制度、介護保険制度の仕組み、サービス内容について説明できる。 地域包括ケアシステムについて理解できる。 地域包括ケアシステム構築における関連職種およびサービス支援について説明できる。						
回数	授業内容						担当
1	医療・保健・福祉に係る社会背景と課題						内田美美佳
2	医療保険制度、介護保険制度について						内田美美佳
3	地域包括ケアシステムについて						内田美美佳
4	地域包括ケアシステムについて						内田美美佳
5	地域包括ケアシステム構築における関連職種およびサービス支援について						内田美美佳
6	地域包括ケアシステム構築における関連職種およびサービス支援について						内田美美佳
7	地域包括ケアシステム構築における実践例						内田美美佳
8	地域包括ケアシステム構築における実践例						内田美美佳
アクティブ ラーニング	地域包括ケアシステム構築における取り組み事例についてグループワークを行う。						
評価基準	グループワークの取り組み姿勢（課題の遂行状況）、成果物、出席から総合評価（100%）を行う。						
教科書	適宜資料配布						
参考書	適宜資料配布						
実務経験に 関する記述	介護老人施設および特別養護老人ホーム、通所リハビリにて11年間臨床経験と、奥出雲町地域リハビリテーション事業の一環として地域住民の健康増進および介護予防事業を行政とともに支援している教員が、地域における課題と対策、理学療法士の役割について実践的教育を行う。						

授業科目名	総合演習Ⅱ		(フリガナ) 担当教官名	理学・作業療法学科教員			
開講学期	通年						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	60 2	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	本科目は、理学療法・作業療法の対象となる臨床心理学、精神医学、神経内科学、整形外科学の知識を統合することを目的としている。授業前の事前学習後に講義を行い、グループワークを中心に理解を深めていく。						
到達目標	2年次に学修すべく臨床心理学、精神医学、神経内科学、整形外科学を復習し、その知識を用いて3年次に行う理学療法治療学・作業療法治療学に応用していく基礎を身につけることができる。						
回数	授業内容					担当	
1~4	精神医学分野					理学療法学科・ 作業療法学科 教員	
5~8	脳血管疾患分野					理学療法学科・ 作業療法学科 教員	
9~16	神経筋疾患分野					理学療法学科・ 作業療法学科 教員	
17~22	臨床心理学分野					理学療法学科・ 作業療法学科 教員	
23~30	整形外科疾患分野					理学療法学科・ 作業療法学科 教員	
アクティブ ラーニング	病態の解釈および到達度に沿った暗記、暗記確認に取り組む。 1. 科目担当教員から事前に分野についての資料提示がある。その後、学生は個人で事前学習として資料内容を確認しておく。 2. 科目担当教員が講義後、理解を深める。 3. 分野について暗記・口頭試問などを行い、理解の程度を確認する。 4. 科目担当教員は過去問題を提示する。その後、学生は問題を解き、間違えた問題について、問題の解釈や解き方等について復習する。						
評価基準	試験 90%、出席状況 10%にて評価する。 ※試験は、各分野の講義後（1週間後）に実施する。 5分野毎に試験（それぞれ100点）を行う。試験において60点に到達しない場合は再試験を受験することができる。						
教科書	適宜、資料を配布する						
参考書	国試の達人 臨床医学編 (株)アイベック						
実務経験に関する記述							

授業科目名	障がい者スポーツ		(フリガナ) 堀江貴文				
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	自由選択
科目概要	障がいの理解、障がい者とスポーツの関係性について講義する。障がい者スポーツにおける用具の工夫やルールについて実践を通して学ぶ。また、障がいに合わせたスポーツの導入や指導方法について実技を交えて体得する。本カリキュラムをすべて履修することにより、初級障がい者スポーツ指導員の資格を取得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者スポーツの意義と理念や様々な障がいについて説明できる。 障がい者スポーツのルールや技術、指導法を体得し、指導できる。 初めてスポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視しスポーツの導入を支援出来る。 						
回数	授業内容						担当
1	オリエンテーション(本科目の到達目標、内容、日程、等) 自己紹介・グループ決め						堀江貴文
2	<ul style="list-style-type: none"> スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質(講義) スポーツのインテグリティとは(スポーツ・インテグリティを脅かす要因・諸問題) スポーツ指導者に求められる資質・能力 障がい者スポーツ指導者の役割・心構え・視点 ボランティアの魅力、ボランティアの心得、留意点 						堀江貴文
3	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者スポーツの意義と理念(講義) 障がい者個人における意義(身体的・精神的効果) スポーツ界および社会一般における意義(共生社会の創造、パラリンピックの効果) 障がい者スポーツの理念(Drグッドマンの考え方や功績、実践上・指導上の理念) 						堀江貴文
4	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションスキルの基礎(講義・演習) よいコミュニケーション、よいプレゼンテーションのための留意点 よい人間関係をつくるために必要なこと スポーツ指導者に求められるコミュニケーションスキル 障がい特性に応じたコミュニケーション方法 実践、演習を通して人前で話すこと、相手の意見を傾聴することを体験する 						堀江貴文
5	<ul style="list-style-type: none"> 障がいのある人との交流(実習) 障がい者スポーツ大会へのボランティア参加を通じた実習等 						堀江貴文
6	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者スポーツ推進の取り組み(講義) 各都道府県・政令指定都市の障がい者スポーツ推進の現状と課題(日本障がい者スポーツ協会ビジョンを含む) 障がい者スポーツ指導者制度の概要 地域の障がい者スポーツ協会や指導者協議会について 資格取得後の活動方法と情報入手方法 						堀江貴文
7	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者スポーツに関する諸施策(講義) 障がい者福祉施策とその変遷(障害者基本法・障害者差別解消法・移動支援・身体障害者福祉法・障害者総合支援法) 障がい者の生活と実態(障がい者数、利用福祉サービス) 障がい者スポーツに関する施策(スポーツ基本法、スポーツ振興体制、スポーツ基本計画とその振興) 						堀江貴文
8	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理(講義) スポーツ指導者の安全配慮義務(心得・リスクマネジメントの基礎) 基礎的な対処法について(救命手当、応急手当、AED、CPR等)※基礎理論のみ ヒヤリ・ハット事例(熱中症、転倒、水分補給) 						堀江貴文
9~10	<ul style="list-style-type: none"> 身体障がい(肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がい、内部障がいを含む)の理解(講義) 各障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で活かせる各障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。 スポーツ活動現場をベースに内容を構成する。 						堀江貴文
11	<ul style="list-style-type: none"> 知的障がい(発達障がいを含む)の理解(講義) 各障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で活かせる各障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける スポーツ活動現場をベースに内容を構成する。 						堀江貴文
12	<ul style="list-style-type: none"> 精神障がいの理解(講義) 各障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で活かせる各障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける スポーツ活動現場をベースに内容を構成する。 						堀江貴文
13~14	<ul style="list-style-type: none"> 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫(実技) (グループワークにて障がい者に対するスポーツ指導の工夫を考え実践し、発表を行う) 						堀江貴文
15	<ul style="list-style-type: none"> 全国障害者スポーツ大会の概要(講義) 全国障害者スポーツ大会の歴史、開催の意義・目的 大会競技規則の原則(基準要綱、基本方針など) 大会実施競技の紹介 						堀江貴文
アクティブラーニング	グループに分かれ、PBL(problem-based learning)にて障がい者スポーツ指導の実践方法を学ぶ。						
評価基準	授業内での積極性・態度・発言などにより総合的に評価する。 ※総授業回数の3分の1以上の欠席を未修とする。 ※2~15回の授業については、1回でも欠席があった場合、初級障がい者スポーツ指導員資格の取得が出来なくなる。						
教科書	適宜資料を配布する。						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)―2020年改訂カリキュラム対応―(株式会社ぎょうせい) 全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)―令和2年度版―(公益財団法人日本障がい者スポーツ協会) 						
実務経験に関する記述	日本障がい者スポーツ協会公認の障がい者スポーツ指導員養成講座を受講し、障がい者スポーツ指導員の資格を有している教員が、各障がいの主な特性に配慮しながら安全にスポーツを実施させるために必要な基礎知識を教授し、地域にある障がい者福祉施設に対し、スポーツおよびレクリエーション指導に取組み実践的教育を行う。						

授業科目名	レクリエーション		(フリガナ) 担当教官名		カナ	フル	ケイ	ヨ	
開講学期	通年				金	弦	敬	子	
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	60 2	授業 形態	演習	必修・選択 の別	自由選択		
科目概要	障がい児・者や高齢者を含む全ての人に対応できるレクリエーションについて理論と技術を学ぶ。レクリエーションの効果について科学的根拠に基づいた評価を一部体験する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> レクリエーションの考え方を理解し、説明することができる。 レクリエーションの技術を修得し、実施することができる。 レクリエーションインストラクター (RI) の資格を取得する。 								
回数	授業内容							担当	
1	I. レクリエーション概論 レクリエーションの成り立ち・歴史の変遷を理解する。							金弦敬子	
2	レクリエーション支援の種類と目的と支援理論 レクリエーションインストラクターの役割							金弦敬子	
3	II. 楽しさと心の健康づくりの理論 楽しさを感じる心の仕組み、及び心の仕組みを根拠にした支援							金弦敬子	
4	楽しさが心の元気をもたらす生理的な仕組み、ライフステージと心の元気づくり							金弦敬子	
5	地域のきずなづくりとレクリエーション							金弦敬子	
6	III. レクリエーション支援理論 コミュニケーションと信頼関係づくりの理論 (気持ちを一つにするための意思疎通)							金弦敬子	
7	レクリエーション活動を通じた良好な集団づくりの理論							金弦敬子	
8	自主的・主体的に楽しむ力を育む理論 レクリエーション展開の見学体験							金弦敬子	
9	見学体験を分析しレクリエーション支援理論を分析する。 (担当教員が実際の現場で展開するレクリエーションを見学・一部体験する)							金弦敬子	
10	IV. レクリエーション支援の方法 ホスピタリティとアイスブレイキングの効果							金弦敬子	
11	対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法							金弦敬子	
12	リスクマネジメントの方法 (疾患別)・プログラムの立案方法							金弦敬子	
13	レクリエーション活用の方法論 (対面・オンラインと EBM に基づいた効果検証方法)							金弦敬子	
14	レクリエーションプログラム立案							金弦敬子	
15	プログラムの実践と検証							金弦敬子	
16	V. レクリエーション活動の実践 対象者の目的に応じた支援方法の抽出と実施 (歌・ゲーム・音楽に合わせた身体活動等)							金弦敬子	
17	信頼関係づくりの方法とホスピタリティの実践							金弦敬子	
18	良好な手段づくりの方法とアイスブレイキングのプログラム立案と実践							金弦敬子	
19	自主的・主体的に楽しむ力を育む展開法の実践							金弦敬子	
20	楽しむ力を高める目標設定の実践							金弦敬子	
21	レクリエーション活動の修得と対象者に合わせるアレンジ							金弦敬子	
22	対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法 (CSS プロセス) の実践							金弦敬子	
23	実践におけるリスク管理と環境設定							金弦敬子	
24~27	目的別実践・グループ実践 目的・企画の立案と修正、実践、目的の効果検証、実践した結果に基づく課題の抽出 レクリエーションリーダーの体験、改善に向けた振り返り							金弦敬子	
28	対象者とのレクリエーション実践と評価及び改善							金弦敬子	
29	疾患別レクリエーションのリスク管理プログラム立案							金弦敬子	
30	試験							金弦敬子	
アクティブラーニング	講義で学修した理論を活かし、学生がプログラムの立案・実践・効果検証を体験する。担当教員が地域現場で実施するレクリエーションの見学と一部体験をする。その中で、レクリエーションインストラクターがどのように企画・運営・修正・実行しているのかについても学習することで、インストラクターの役割を体験する。								
評価基準	期末試験 (50%)、授業態度や発言 (40%)、出席状況とレポート (10%)								
教科書	公益財団法人日本レクリエーション協会編：楽しさをとおした心のげんきづくり～レクリエーション協会～ 2020								
参考書	レクリエーション支援の方法楽しさをとおした心の元気づくり 補助教材								
実務経験に関する記述	RI 資格を保有する教員が授業を展開する。実務経験は高齢者の介護予防教室、障がい者の通う施設での健康教室を開催してきた教員が授業を展開する。領域は身体・精神・発達・高齢者・地域等である。								

授業科目名	コミュニティ・ベースド・リハビリテーション (CBR)		(フリガナ) 担当教官名		オ 尾 シ 宍	ノ 野 ド 戸	ヒロ 寛 ヤ ス 容	アキ 明 ヨ 代	ウチ ・ 内 ヤマ	ダ 田 モ ト	サキ 咲 マ リ 子	コ 子 コ 真理子
開講学期	前期											
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	自由選択					
科目概要	<p>近年、人間の多様性の尊重等の強化がされる中、すべての虚弱な方々が自由なコミュニティや社会に効果的に参加することを可能とする目的で、リハビリテーションアプローチの一つである Community-Based Rehabilitation : CBR が用いられている。本科目ではフィールドワークを通じて地域の課題を分析し、理学療法・作業療法の視点を加えた解決のための策を見つけ、地域住民に対してプレゼンテーションを行う。</p> <p>※本科目は、選択科目となっています。</p> <p>※本科目は、2年次および3年次のどちらの学年でも履修可能です。</p>											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ CBR の概念を理解する。 ・ 地域住民や他職種との協業の意義や必要性を知る。 ・ 地域のインフォーマルな集団において、問題発見・解決を行う。 ・ プロジェクトマネジメントを学び、課題を期間内に遂行できる能力を身につける。 											
回数	授 業 内 容										担 当	
1	CBR の概念について説明、実践例などを調べる										尾野・内田 宍戸・山本	
2	地域を知る；横田地区の立地、人口などを調べる										尾野・山本	
3	地域を知る；三沢地区の立地、人口などを調べる										尾野・山本	
4	地域を知る；地域の人に聞く										尾野・山本	
5	現状調査；フィールドワーク										尾野・内田 宍戸・山本	
6	現状調査；フィールドワーク										尾野・内田 宍戸・山本	
7	現状調査；フィールドワーク										尾野・内田 山本	
8	現状調査；フィールドワーク										尾野・内田 山本	
9	PT・OT 視点での改善点作成										尾野・山本	
10	PT・OT 視点での改善点作成										尾野・山本	
11	発表資料準備										尾野・内田 山本	
12	発表資料準備										尾野・内田 山本	
13	発表資料準備										尾野・内田 山本	
14	地域での発表、意見交換会										尾野・内田 宍戸・山本	
15	地域での発表、意見交換会										尾野・内田 宍戸・山本	
アクティブ ラーニング	地域についてフィールドワークで得た情報から導き出した問題点などから、グループワークを行い、課題解決策を作成し、発表する。											
評価基準	授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況）、出席及び課題から総合評価 100%											
教科書	適宜紹介											
参考書	適宜紹介											
実務経験に 関する記述												

授業科目名	医療関連ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス (演習)		(フリガナ) 担当教官名		オノ 尾野 ヤスダ 安田 ヤマモト マ 山本真理子	ヒロアキ 寛明 アサカ 彩夏 マ マ マ	キツカワ 吉川 イトガ 糸賀	ヒデオ 英夫 ナツキ 夏樹	イシガメ 石亀 オチアイ 落合	ゴロウ 五郎 タカユキ 孝行
開講学期	前期									
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	自由選択			
科目概要	<p>ビジネスを通じて地域課題解決を図る動きとして「ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス(SB・CB)」が注目を浴びている。集落の小さなビジネスが地域の健康づくりにつながることも多い。本科目では、奥出雲町で実際にSB・CBを手掛ける、若手関係者と対話を重ねるプログラムを実施する。彼らに密着する中で、自分たちの専門性を掛け合わせてできそうな小さな企画を考える。大多数の学生は、まずは専門職として医療機関や支援機関で働くことになる。一方で将来的に、地域の困りごとを解決しながら人々の健康づくりにつなげていく「コーディネーター」のような働き方や、地域で独立・起業するような働き方を思い描いている学生も増えている。そのためにも、専門職の技術と地域課題を掛け合わせる感性を持ち合わせてほしいと願っている。本プログラムを通じて、新たな領域を開拓する意識の養成を目指す。</p> <p>※本科目は、選択科目となっています。</p> <p>※本科目は、2年次および3年次のどちらの学年でも履修可能です。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・SB、CBの基本的概念を理解し、ビジネスを通じて地域課題解決に取り組む意義を理解する ・複雑かつ多岐にわたる地域課題を俯瞰して今取り組むべき課題を抽出できる「課題設定能力」を身につける ・地域まるごとリハビリテーションを迫及するために、地域の様々な関係者と連携できる「対話力」「点と線をつなぐ力」を身につける ・無理に企画を作るのではなく、地域の実践者たちの取り組みに専門技術を掛け合わせて試行錯誤できる感性を身につける 									
回数	授業内容								担当	
1	医療・福祉職がなぜ、ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスを学ぶのか。								尾野・吉川・石亀・安田 糸賀・落合・山本	
2	SB、CBの基本的概念：普通のビジネスと何が違うのかを理解する。								尾野・安田 山本	
3	SB、CBが生み出すもの：生きがい創出、健康増進など、ビジネスを通じた課題解決の可能性を学ぶ。								尾野・石亀 山本	
4	「小さな拠点」づくりとコミュニティビジネス：中山間地域の生活機能維持に向けたCBの役割を理解する。								尾野・安田 落合・山本	
5	医療福祉とSB・CB：地域医療・地域福祉領域の課題とSB・CBの最先端の事例を学ぶ。								尾野・石亀 糸賀・山本	
6~8	現地訪問(1):町内の「小さな拠点づくり」の現場やコミュニティビジネスの取り組みを見学し、若手とアイデア会議をする								尾野・吉川・石亀・安田 糸賀・落合・山本	
9~11	現地訪問(2):地域課題と自分たちの専門性を掛け合わせてできそうな小さな企画を考える								尾野・糸賀 落合・山本	
12~13	現地訪問(3):地区の若手たちと協力して小さな企画を実施してみる								尾野・石亀・安田 落合・山本	
14~15	地域の関係者向けの報告会								尾野・吉川・石亀 安田・糸賀・山本	
アクティブ ラーニング	地域のフィールドワークや実践者たちとの対話から自分なりの視点で課題を見つけ出し、自分たちができそうな小さな企画を考えて発表する。									
評価基準	地域の関係者向けの報告会プレゼンで評価									
教科書	適宜資料を配布する。									
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・尾野寛明・中村香菜子・大美光代『わたしをつくるまちづくり～地域をマジメに遊ぶ実践者たち』(コールサック社、2021年) ・竹端寛・尾野寛明(編著)『無理しない地域づくりの学校 私からはじまるコミュニティワーク』(ミネルヴァ書房、2017年) 									
実務経験に 関する記述										

授業科目名	医学英語		(フリガナ) 担当教官名		岩 田 淳		
開講学期	通年						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	60 2	授 業 形 態	演 習	必修・選択 の 別	自由選択
科目概要	医療従事者にとって、英語は医療情報の収集や共有において不可欠なツールです。訪日や在日外国人患者の増加に伴い、日本語が通じない患者さんと円滑なコミュニケーションをとるためにも、英語のスキルがますます求められています。この科目では、医療やリハビリテーションに関する基本的な英語専門用語の習得、様々なリハビリテーションの場面を想定した医療会話のリスニング演習、そしてロールプレイを通じて、理学療法士や作業療法士として必要な基礎的で実践的な英語コミュニケーション能力を身につけます。英語の得意・不得意に関わらず、「医学英語の基礎を学びたい」と考える方や、「リハビリの現場で実際に使える英会話力を身につけたい」という方におすすめの授業です。ぜひ、幅広い医療状況に対応できる英語スキルを身につけ、自身の専門領域でより一層活躍できるようになりましょう。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療やリハビリテーションに関する基本的な英語の専門用語が理解できる。 ・医療やリハビリテーションのさまざまな場面の英会話を聞いて内容が理解できる。 ・医療やリハビリテーションに関するさまざまな説明を英語を使って表現できる。 						
回数	授 業 内 容						担 当
1	授業ガイダンス（前半の授業の進め方、評価）						岩田
2	Lesson 1: 挨拶: 初回の挨拶をしよう						岩田
3	Lesson 2: 問診(1): 痛む部位を聞いてみよう						岩田
4	Lesson 3: 問診(2): 痛みの種類や程度を聞いてみよう						岩田
5	Lesson 1-3のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう (1)						岩田
6	Lesson 4: 問診(3): 痛みの経過を聞いてみよう						岩田
7	Lesson 5: 肢位設定(1): 基本的な肢位を指示してみよう						岩田
8	Lesson 6: 肢位設定(2): 応用的な肢位を指示してみよう						岩田
9	Lesson 4-6のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう(2)						岩田
10	Lesson 7: 評価(1): バイタルサインを確認しよう						岩田
11	Lesson 8: 評価(2): 自動可動域を測定してみよう						岩田
12	Lesson 9: 評価(3): 他動可動域を測定してみよう						岩田
13	Lesson 7-9のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう(3)						岩田
14	Lesson 10: 評価(4): 体幹の可動域を測定してみよう						岩田
15	Lesson 11: 評価(5): 頸部の可動域を測定してみよう						岩田
16	Lesson 12: 評価(6): 筋力を測定してみよう						岩田
17	Lesson 10-12のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう (4)						岩田
18	Lesson 13: 評価 (7): 触覚検査をしてみよう						岩田
19	Lesson 14: 評価 (8): バランス検査をしてみよう						岩田
20	Lesson 15: 評価 (9): 歩行評価をしてみよう						岩田
21	Lesson 13-15のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう (5)						岩田
22	Lesson 16: 治療 (1): ホームエクササイズを指導してみよう						岩田
23	Lesson 17: 治療 (2): RICE 処置をしてみよう						岩田
24	Lesson 18: ADL(1): 移乗動作の練習をしてみよう						岩田
25	Lesson 19: ADL(2): 食事の評価と指導をしてみよう						岩田
26	Lesson 16-19のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう (6)						岩田
27	Lesson 20: 環境調整 (1): 適切な歩行補助具を選択してみよう						岩田
28	Lesson 21: 環境調整 (2): 自宅のトイレを改修してみよう						岩田
29	Lesson 22: 退院: 退院後の生活指導をしてみよう						岩田
30	Lesson 20 - 22のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう (7)						岩田
アクティブ ラーニング	ペアワークによる英会話のロールプレイを行います。						
評価基準	確認テスト 70%、授業への取り組み 30%						
教科書	『PT・OP が書いたリハビリテーション英会話』三木貴弘他著・Medical View 社 2,640 円（税込）						
参考書	プリント教材（配布）						
実務経験に 関する記述	島根大学医学部にて 14 年間にわたり専門的な医学英語教育の実績を有する教員が、専門英語教育の教材や教授法を用いて、理学療法士・作業療法士として必要となる医学英語コミュニケーション能力の養成を目指した専門教育を行う。						